



表証と解表剤

黄 懷龍

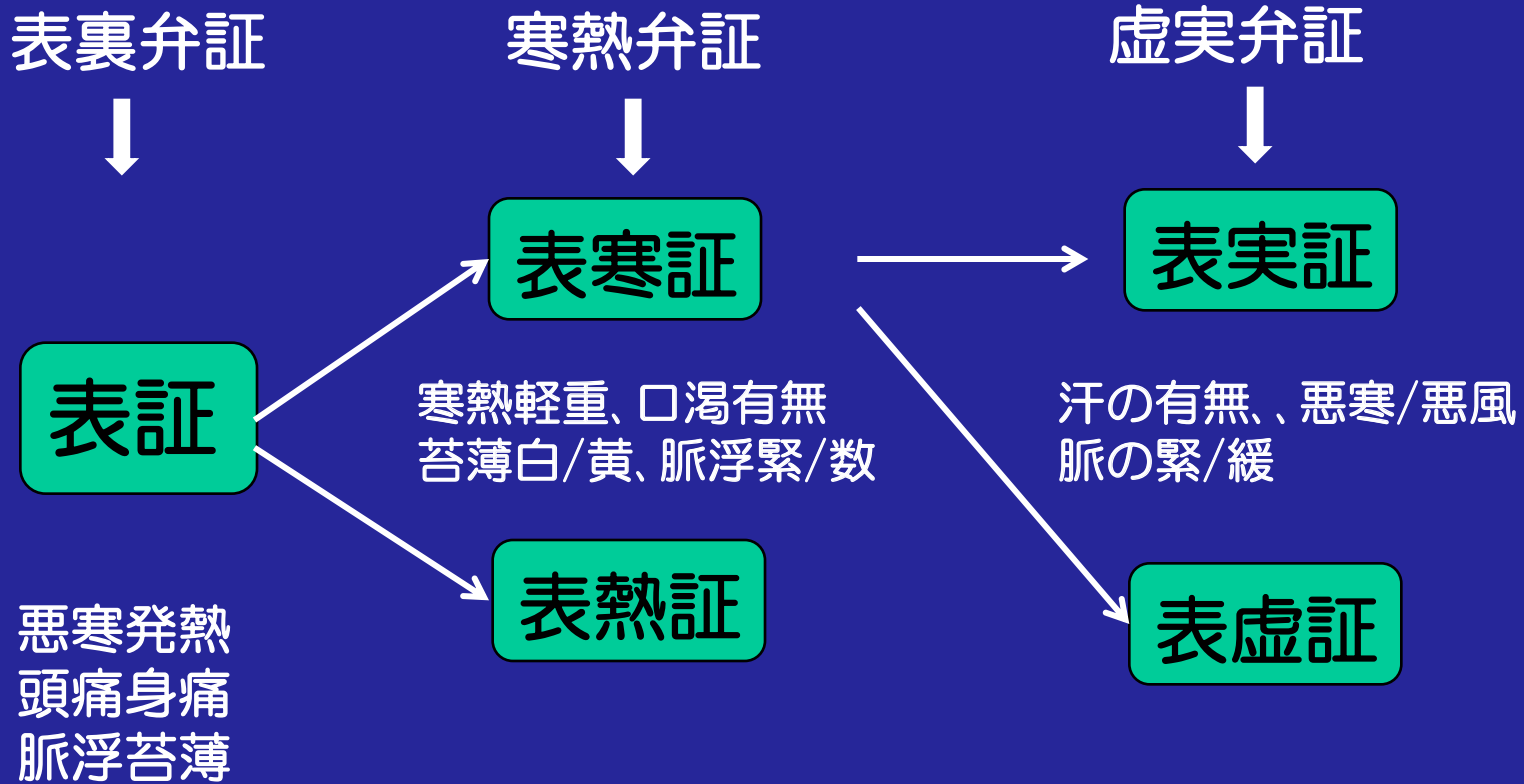
一、表証とは

表証は外感疾病の初期に見られ、体の肌表で正気と邪気の闘争が行われ、発熱悪寒、浮脈を主証とする症候である。風邪の初期など症状に相当するものである。

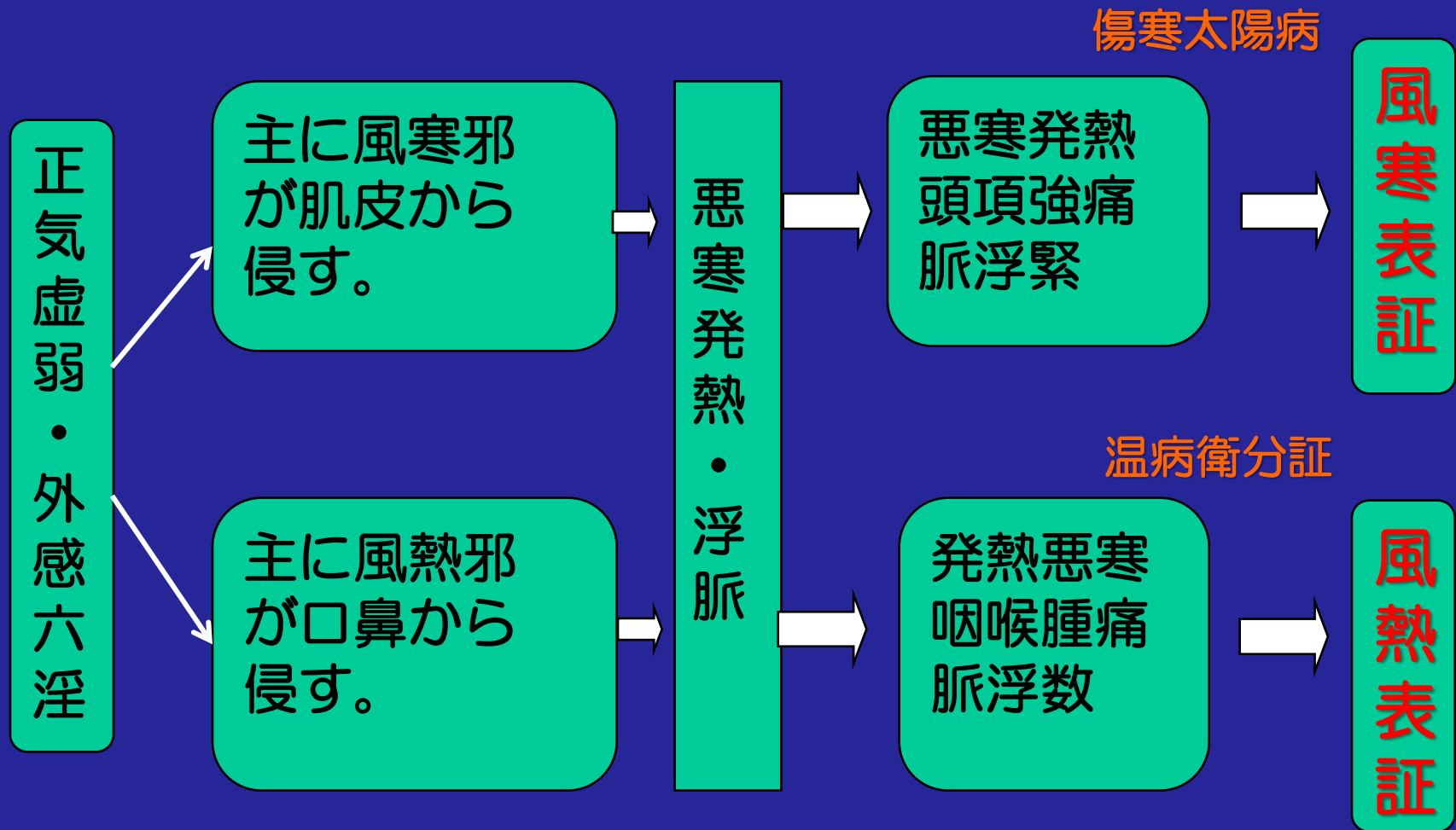
肌表は人体に一番外側の防衛壁であり、「藩籬」と呼ばれ、六淫の邪気が身体に侵入すれば、まず肌表を襲われ、発熱悪寒、頭痛脈浮など症状が現われる。この段階にて邪気がわりと軽浅ですので、発汗解表法で邪気を肌表から発散させ、外へ追い出すことができる。

(一) 弁証のポイント

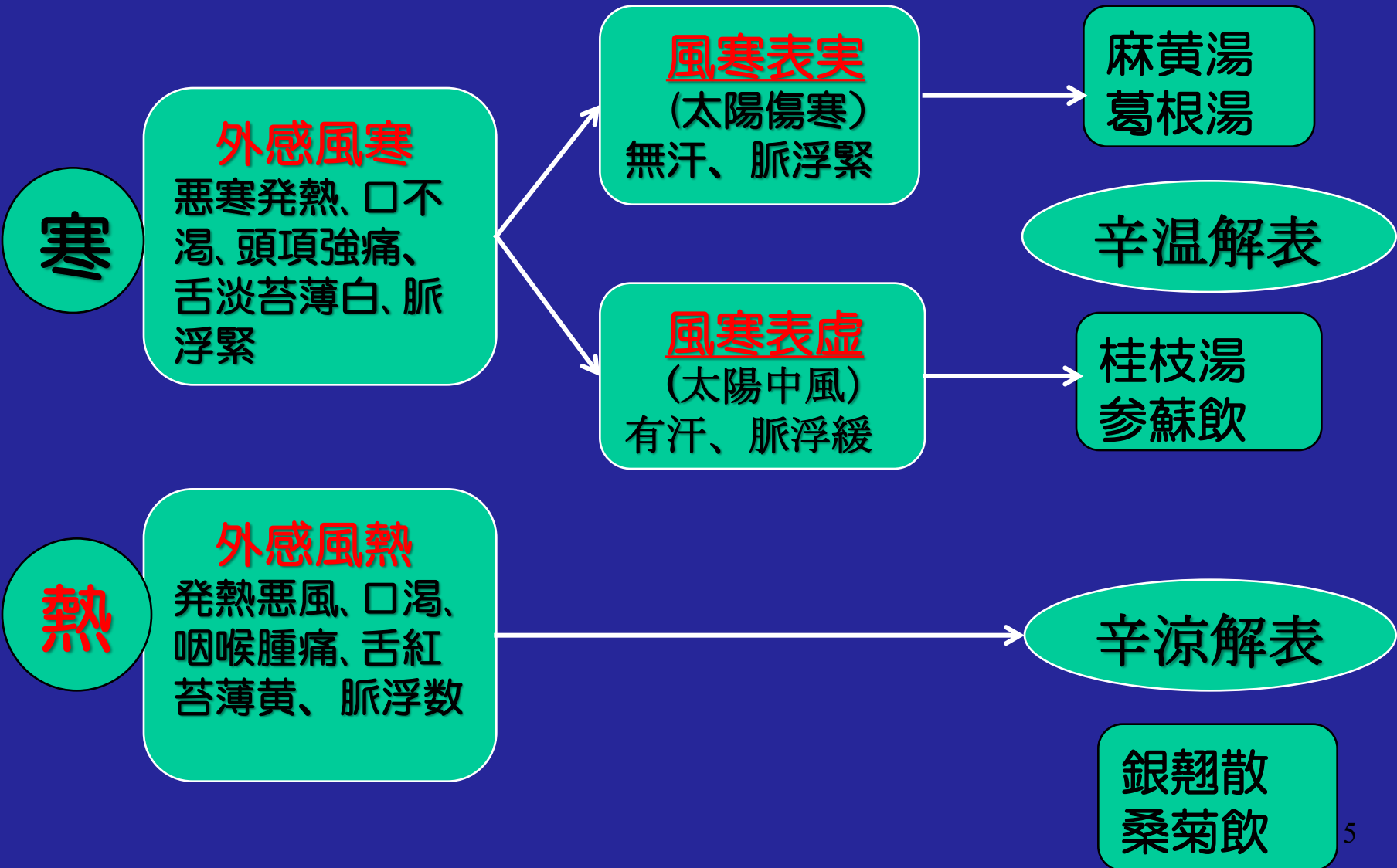
1、八綱弁証



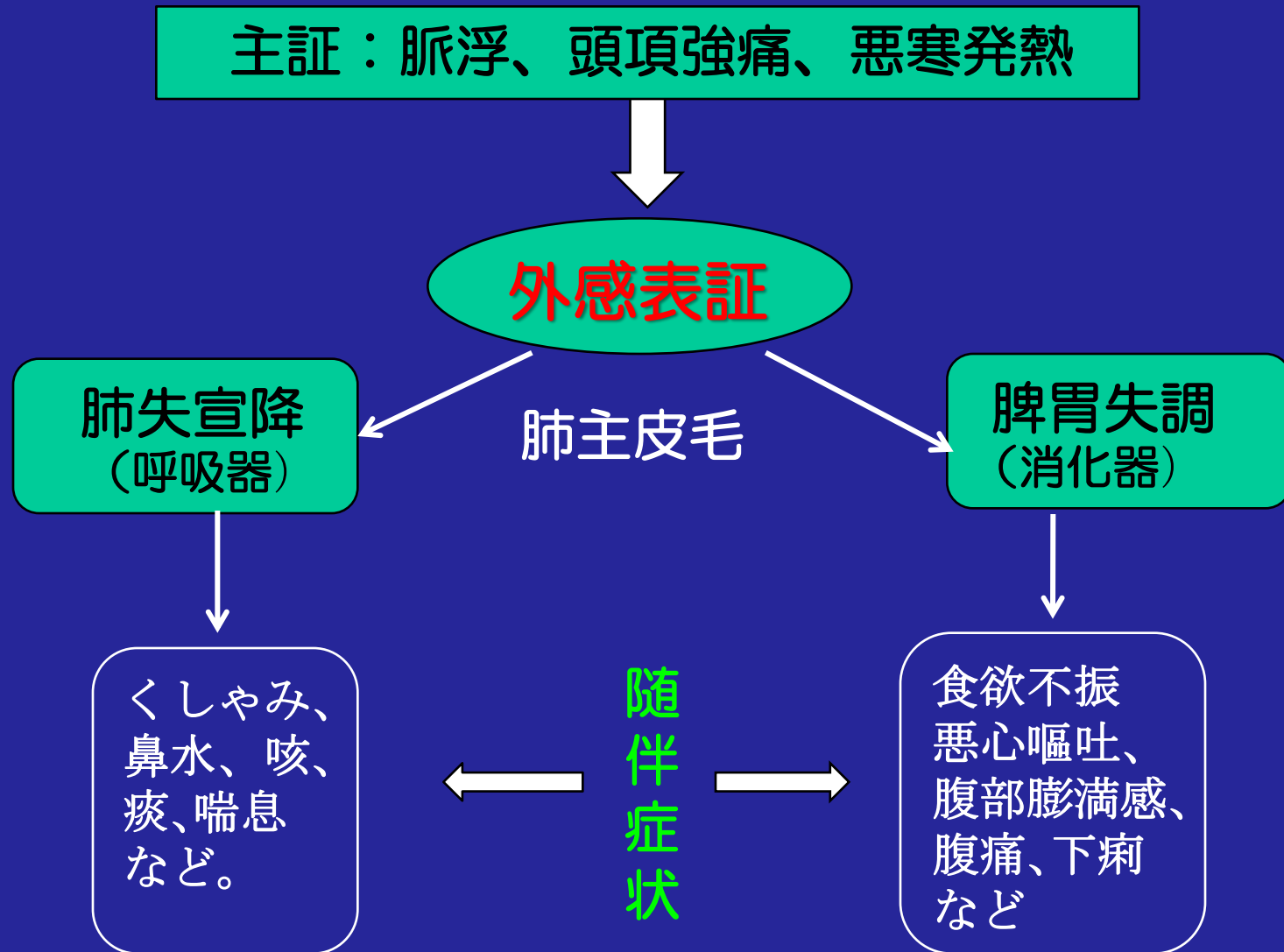
2、病因弁証



3、寒熱虛實并証



4、主証と随伴症状

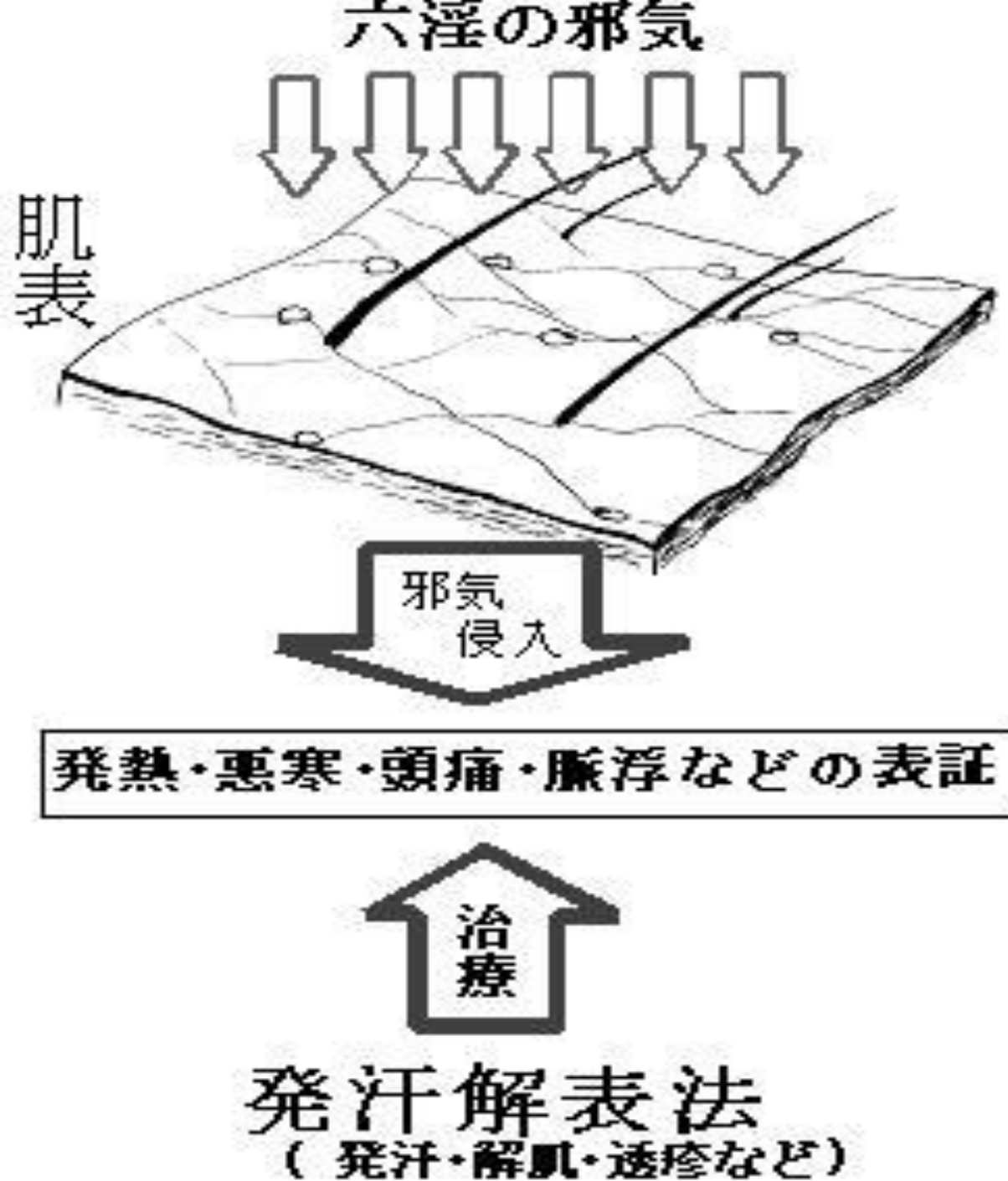


(二) 治療原則

《素問・陰陽応象大論》には「その皮にあるは、汗してこれを発す」、「体若燔炭、汗出而散」「その軽きによりこれを揚ぐ」という表証の解表発散治療原則である。

主に辛散輕揚の生薬を用いる。発汗、解肌、透疹などの効能により、体表の邪気を汗とともに体外へ除去する治療方法を「汗法」、「解表法」という。治療八法の汗法に属する。

発散解表



二、解表剤とは

解表剤とは、辛散輕揚で発汗、解肌、透疹などの効能をもつ薬物を主体にして表証を治療する方剤である。

肌表の邪気を汗とともに体外へ追い出す治療法で、「汗法」や「解表法」と称する。

《素問・陰陽応象大論》には「その皮にあるは、汗してこれを発す」、「その輕きによりてこれを揚ぐ」という表証の治療原則がある。

（一）組成藥物

主に辛散輕揚の藥物で組成され、例えば麻黄、柴胡、薄荷、荊芥、蘇葉、桑葉、菊花などで、薬用部分は主に植物の花や葉など質が軽く辛味で、宣発昇散作用を持ち薬物である。



麻 黄



薄 荷



桑 葉



紫蘇葉

（二）効能効果

主に発汗、解肌、透疹などの効能である。発汗により、肌表にある病邪を追い出す作用を果たす。

①汗腺の分泌を促進して、血管を拡張させることにより、ウイルス、細菌による毒素の排泄及び体内免疫能を高めるなど総合的な作用がある。

②発汗と周囲血管の拡張させる作用を通して、熱を下げて、体温を正常に戻す。

③局部ないし全身の循環を改善させ、新陳代謝を促進し、老廃物の排泄及び局部炎症の消散を促進し、筋肉痛を和らげる「通則不痛」である。

(三) 主 治

1、外感表証

六淫の邪気が肌表に侵入して、悪寒発熱、浮脈を主証とする表証。具体的に邪気の種類及び、季節、地域、体質によって、風寒表証、風熱表証、風燥表証、体虚表証などに分けられている。

2、他の証

解表剤は、肌表にある邪気を発散除去する効能を持っているから、外感表証以外、その他の疾患に悪寒発熱、脈浮など表証を伴う場合にも使用できる。例えば、麻疹、瘡瘍、水腫、リウマチ、マラリア、下痢などの初期にて、表証を伴う時にも適応する。

(四) 分 類

1、辛温解表剂：

麻黄湯・桂枝湯・葛根湯・小青竜湯・香蘇散・葛根湯加川芎辛夷・桂枝加朮附湯・川芎茶調散など。

2、辛涼解表剂：

銀翹散・桑菊飲、麻杏甘石湯・五虎湯・越婢加朮湯・升麻葛根湯・清上防風湯・小柴胡湯など。

3、扶正解表剂：

参蘇飲・麻黄附子細辛湯など。

(五) 注意事項

①**不宜久煎**：解表薬の多くは辛散輕宣のもので、薬性が揮発しやすいので、久しく煎じれば、効果が減弱されるから。

②**温服取汗**：解表剤を温めて飲んだあと、風寒を避け、服或は布団を厚くして汗を出すようにして。（穀氣助汗）

③**弁証応用**：表証裏証兼見では、原則的に先表後裏、或は表裏両解法で治療する。

④**使用慎重**：病邪が既に裏に入ってしまった；或は麻疹もう透発した、瘡瘍が破れた；或は虚証の水腫、盜汗、自汗、吐瀉脱水、熱病後期津液損傷など。

(六) 代表的方劑

1、辛溫解表劑：

主に麻黄、桂枝、荊芥、防風、紫蘇など辛溫発散の薬物を主体に組成する方剤で、風寒表証（悪寒発熱、頭身痛、口不渴、無汗或は有汗、舌苔薄白、脈浮緊）に用いる。

麻黄湯：発汗解表、宣肺平喘 → 風寒表実証

桂枝湯：解肌発表、調和営衛 → 風寒表虚証

葛根湯：発散風寒、疎筋止痛 → 風寒項背強痛証

小青竜湯：温肺化飲、散寒平喘 → 寒飲喘咳証

2、辛涼解表劑：

主に辛涼発散に働く薄荷、桑葉、菊花、葛根、升麻など薬物を主体に組成する方剤で、外感風熱表証（発熱悪寒、咽痛、口渴或は咳、舌辺尖紅、脈浮数、舌苔薄黄など症候を治療する方剤である。

桑菊飲：疏散風熱、宣肺止咳 → 風熱軽証

銀翹散：清熱解毒、疏風解表 → 風熱平証

麻杏甘石湯：辛涼宣泄、清肺平喘 → 風熱重証

3、扶正解表劑：

主に党参、玉竹（葳蕤）、附子など扶正藥物と麻黄、羌活、防風、豆豉など解表薬と配伍組成した方剤であり、扶助正気、解表散邪の総合作用により、体虚外感諸証に適応する。

麻黄附子細辛湯：助陽発表 → 陽虚外感

人参敗毒散：補気祛風散寒祛湿 → 気虚外感

加減葳蕤湯：滋阴清热、发汗解表 → 陰虚外感

(七) エキス解表剤の応用

基本は：①風寒型と風熱型をはっきり弁別して用いる。
②正気の強弱及び随伴症状によって使い分ける。

1、風寒型：

- 麻黄湯：悪寒発熱、頭痛、汗が出ない、全身関節痛、咳。乳児の鼻づまりにも用いる。
- 桂枝湯：発熱と悪風、筋肉痛、汗が出る。
- 葛根湯：悪寒発熱、後頸部のこわばりや痛みを伴う、汗が出ない、時に下痢する。
- 小青竜湯：鼻水、くしゃみを伴う、多量で沫のある水様性の痰を伴う咳、また、喘鳴、呼吸困難感、手足顔面の浮腫にも用いる。
アレルギー性鼻炎、気管支炎にも用いる

- 葛根湯加川芎辛夷：葛根湯証に加え、鼻症状を伴う時
- 柴胡桂枝湯：発熱微悪寒、関節痛、食欲不振、悪心、心窩部が痞え、軽度の咳、咽喉炎が続くなど。

2、風熱型

- 麻杏甘石湯・五虎湯：発熱悪風、咳嗽喘息、黄粘痰、口渇、舌質が紅・舌苔が黄色
- 小柴胡湯：力ゼの遷延状態で、往来寒熱、咳、痰、胸脇苦満、口苦咽乾、目眩、吐き気や食欲低下など。
- 小柴胡湯桔梗石膏：小柴胡湯証に特に喉の渇きや咽頭痛が強い場合
- 麦門冬湯：微熱、乾燥性咳～痰の切れにくい咳、口渇、吐きそうになる、体力もあまりない。また妊婦の咳にもよく用いる。
- 清上防風湯：発熱、咽喉腫痛、口渇
- 辛夷清肺湯：力ゼ中後期、鼻つまり、黄色鼻汁

2、体虚外感型

- 参蘇飲：悪寒発熱、体倦怠、咳き多痰、胸悶腹満、舌苔白、脈弱
- 麻黄附子細辛湯：悪寒が持続し、微熱、横になりたがる、倦怠感四肢が冷え、舌淡苔白、脈が沈無力。
- 補中益気湯：悪寒が去った後に倦怠感がとれない、或は力ゼが長引きやすい、繰り返す力ゼを引くなど。



ご清聴ありがとうございました！